

(国立情報学研究所 第49回 教育機関DXシンポジウム 発表資料)

希望授業方法ごとの学生の特徴と 今後の授業方法に関する学生調査結果

2022年 4月 15日

大学院教育強化推進センター 市村光之

高大接続から学部教育、大学院教育、卒業後まで、 学生にフォーカスし一貫して見通すIRシステムの構築

質保証：学部教育の課題

- ✓ 入口の課題：主体的な学びの醸成
- ✓ 出口の課題：就業力（特に対人基礎力）

質保証：大学院教育の課題

- ✓ 継続課題：自己効力感のさらなる強化
- ✓ 専門家の課題：異分野交流、発信力

質保証：社会からの要請

- ✓ 就業力：主体的に考え動ける人材
- ✓ グローバル人材：主体的な状況適応力

学生IRにより

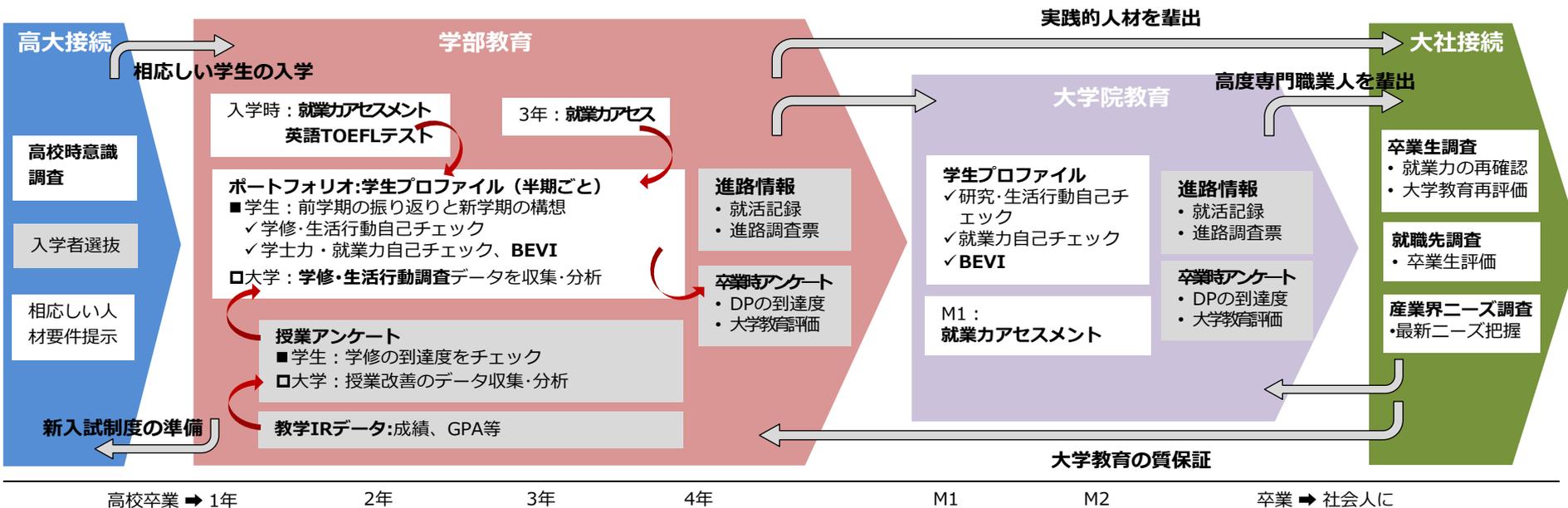
- ① 学士力・就業力を可視化
- ② 学修成果を検証
- ③ PDCAサイクルの構築

学修成果の評価指標

- ディプロマ・ポリシー
- 学士力：4つの実践的「知」
- 就業力：コンピテンシー

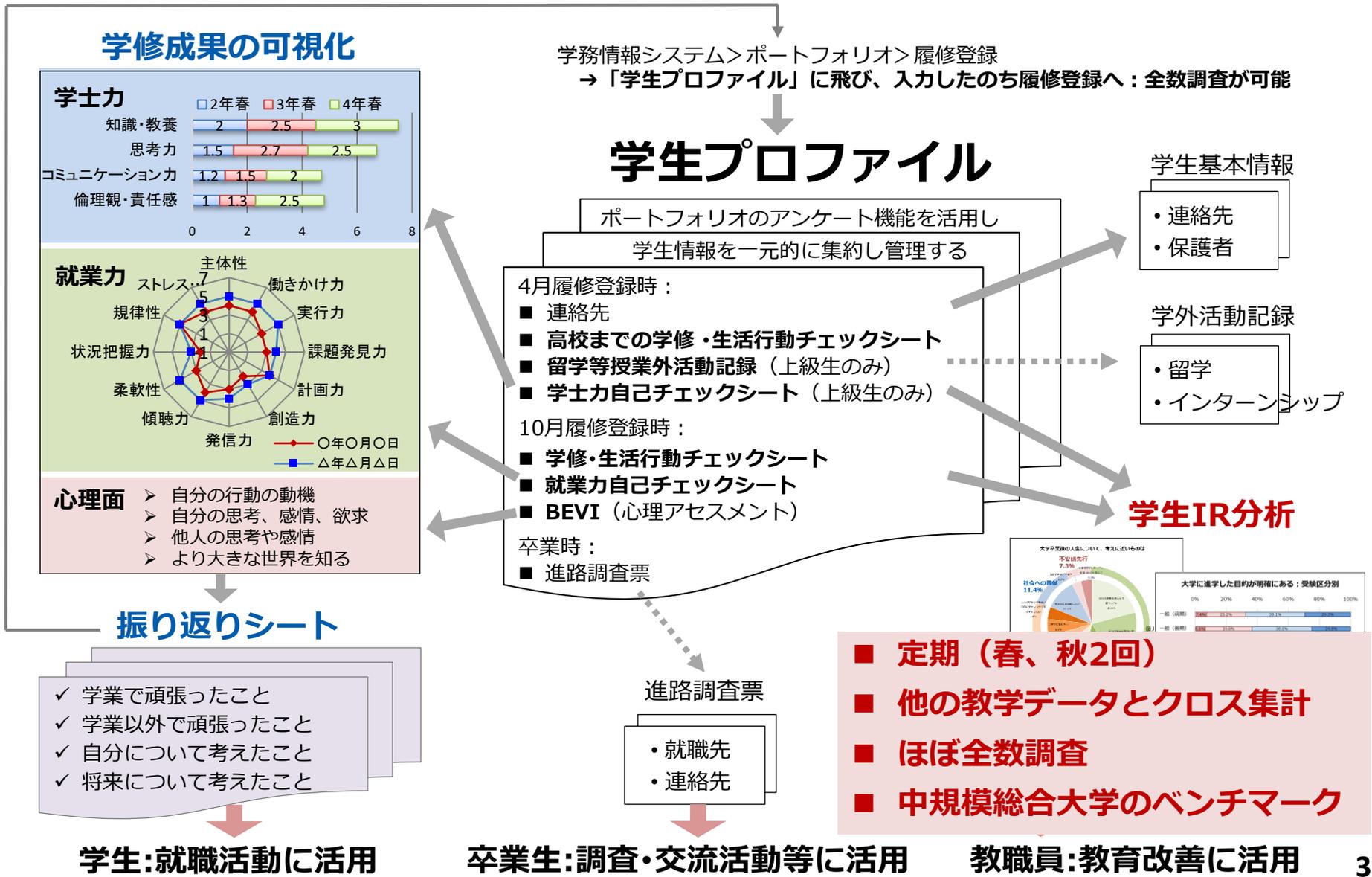
学修成果の収集手法

- 学修・生活行動自己チェック
- 学士力、就業力自己チェック
- 教学IRデータ
- 卒業時アンケート
- 卒業生、就職先等産業界の評価



学生プロフィール：学修成果の可視化と学生IR

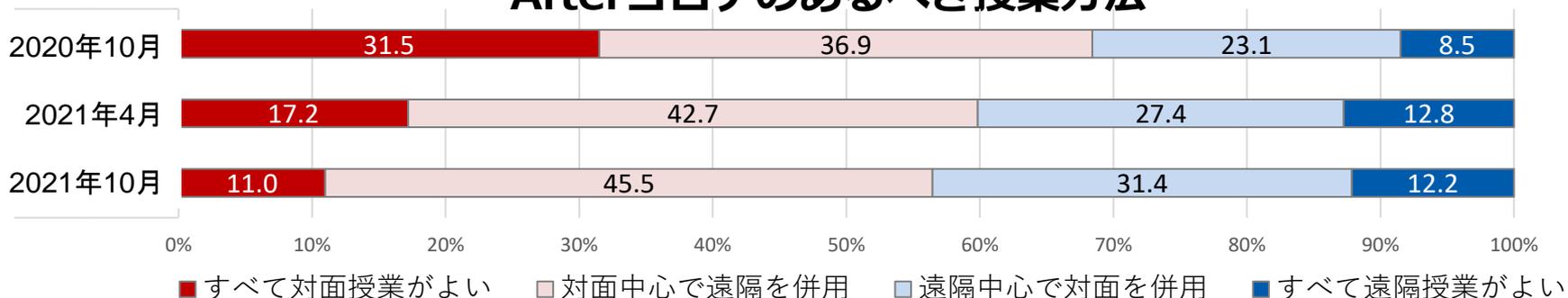
— 学生の主体的な学びのデザインをめざして：学生プロフィールで収集したデータをYNU学生ポートフォリオに蓄積 —



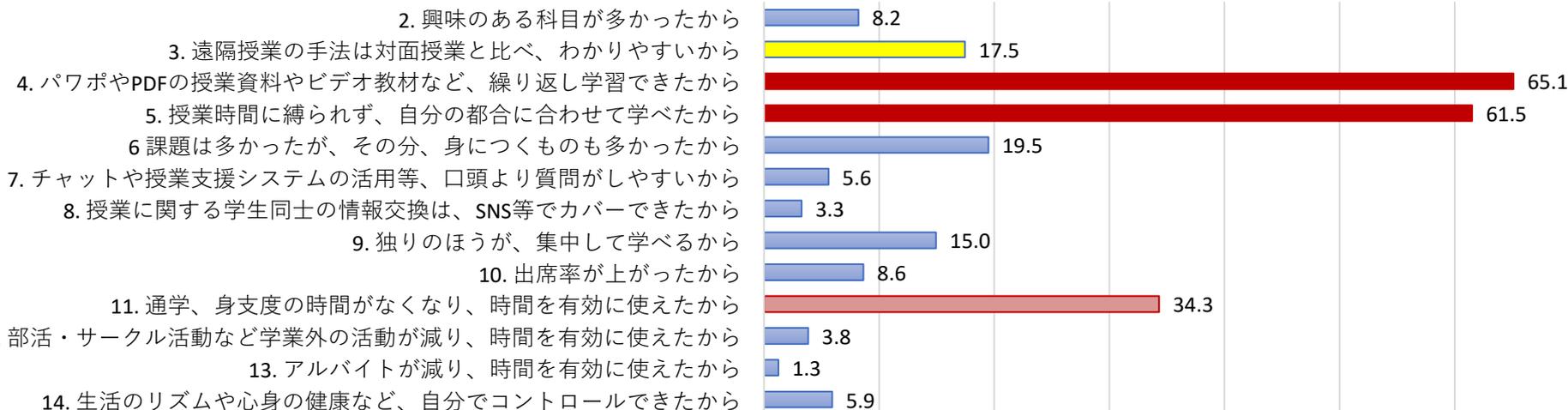
学生たちの受け止め：授業方法

- 授業方法：授業内容により**対面/遠隔を使い分ける**ことを望んでいる
- 遠隔授業：ツールの利便性が利点 → **利便性をどう活かすか**が課題

Afterコロナのあるべき授業方法



遠隔授業が対面授業より身についた理由 (最大3つ選択、2021年4月)



対面/遠隔派のプロフィール (2020年10月)

① 全対面希望者: 31.5%

② 対面中心: 36.9%

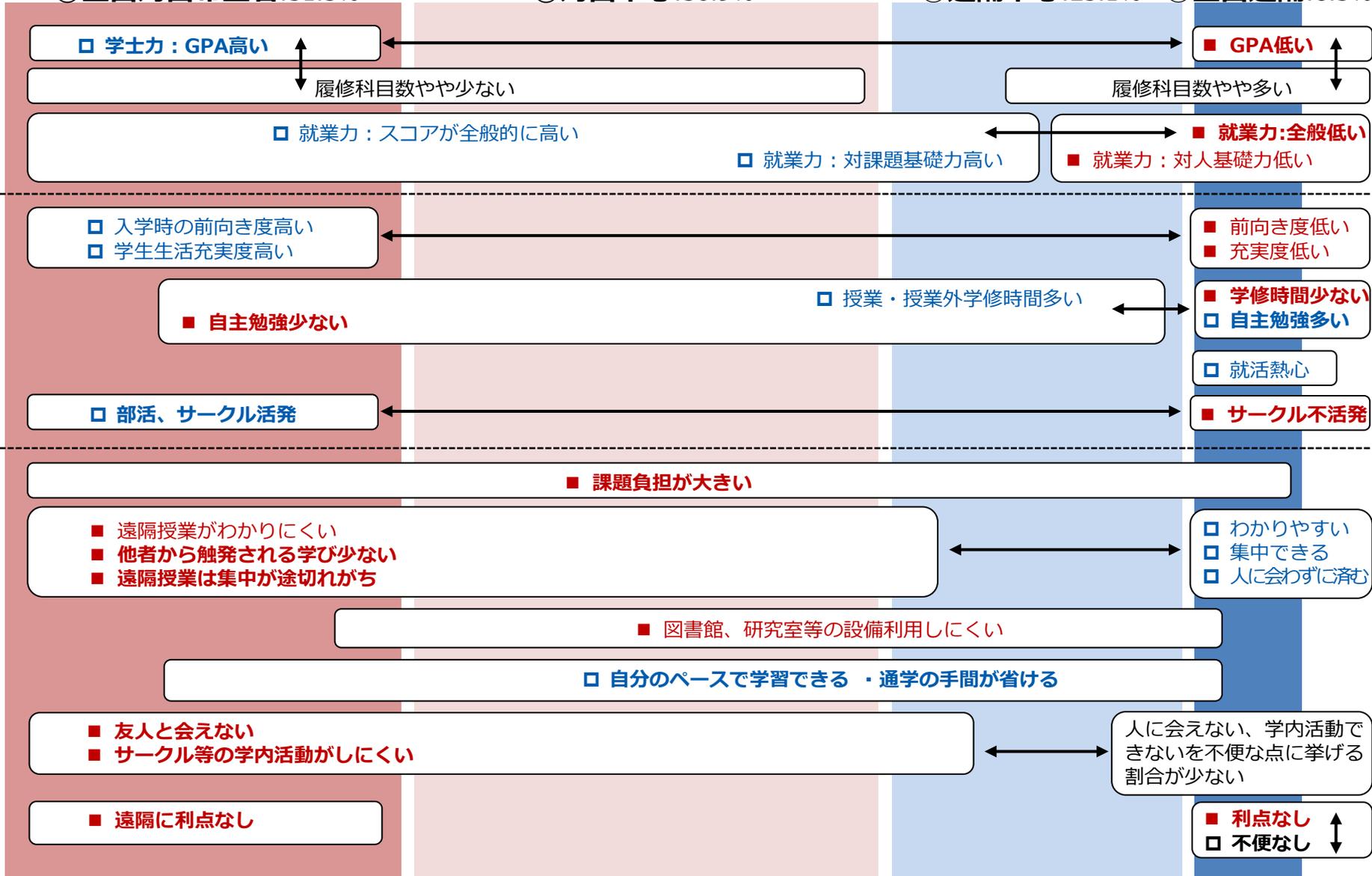
③ 遠隔中心: 23.1%

④ 全面遠隔: 8.5%

学修成果

学修・生活行動・意識

遠隔授業の受け止め



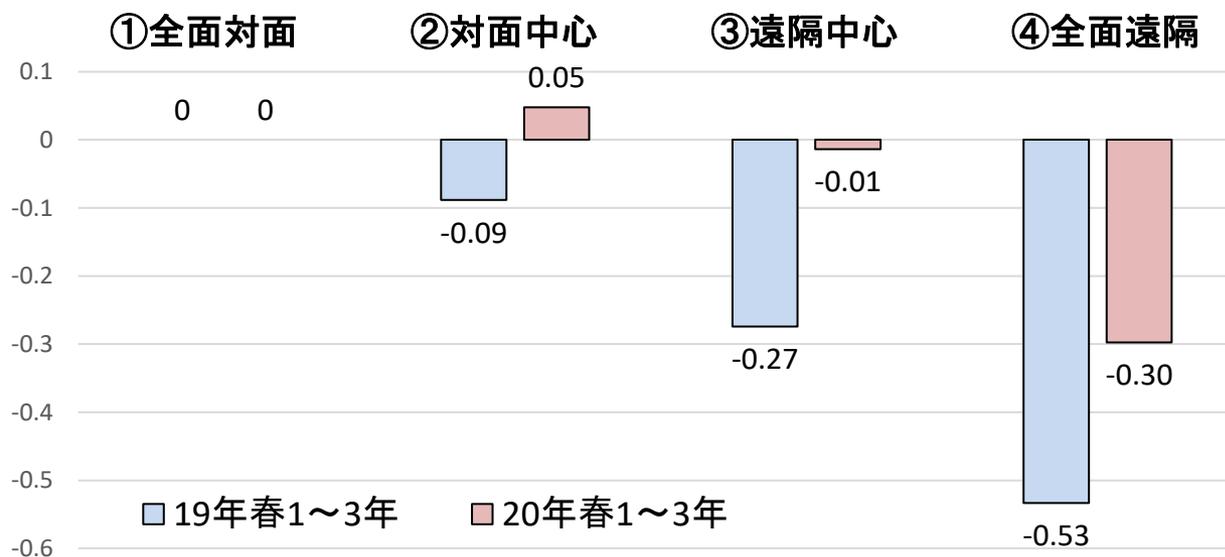
(: ポジティブ、 : ネガティブ、太字 : 特に傾向強い、横軸の文字位置 : 傾向が強いほう、矢印 : 対比的傾向、授業方法の四角幅 : 希望者の割合を示す)

希望授業方法ごと：GPAの比較

- 2019年度までの通算GPA：全面对面 > 対面中心 > 遠隔中心 > 全面遠隔の順
(相関係数0.217：弱い相関あり)
→ **元々成績がよい人が対面を希望する傾向がある**：真面目に授業に出る資質の人が成績がよい？
- 2020年春のGPA：各派ともGPAが上昇。上昇幅は遠隔希望者が大きい
→ **遠隔になったことで成績が向上**した人（対人関係の少ない遠隔授業のほうが学修成果が上がる人）が存在する

希望授業方法毎のGPAの差分比較 (①を基準に算出：2020年10月)

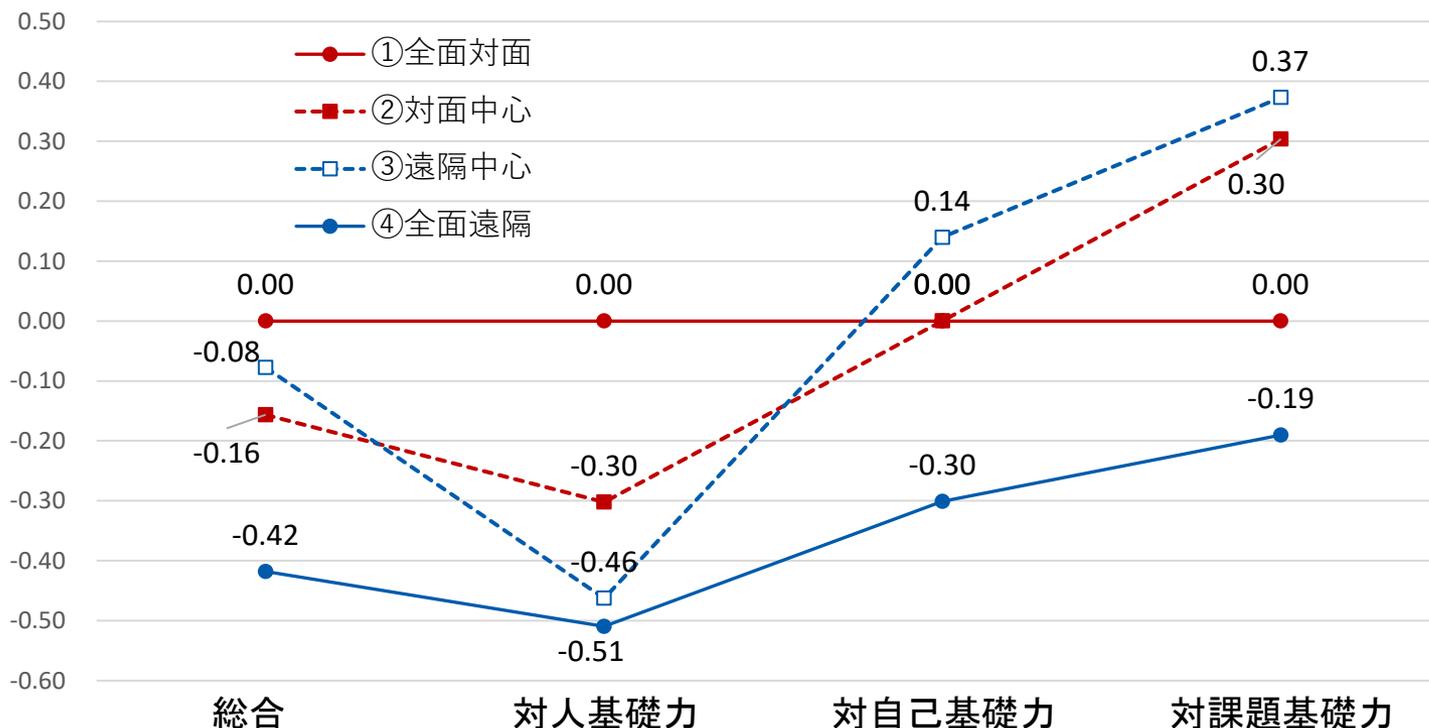
(コロナ禍前の2019年春学期の1～3年生と、遠隔授業となった2020年度春学期の1～3年生のGPAを比較)



希望授業方法ごと：就業力の比較

- 総合：全面对面、対面中心、遠隔中心は僅差。全面遠隔が目立って低い（相関係数0.126：ごく弱い相関あり）
- 対人基礎力：全面遠隔、遠隔中心希望者が低い
 - 全面遠隔希望者は**就業力、GPA共に低い傾向**がある
 - **対人基礎力が弱い人が遠隔授業を希望**する傾向がある

希望授業方法毎：就業力の差分比較 (①を基準に算出：2020年10月) (過去において就業力アセスメント：PROGを受験した現3、4年生のスコアを比較)



対面/遠隔派のプロフィール

① 全面对面希望者:31.5%

② 対面中心:36.9%

③ 遠隔中心:23.1%

④ 全面遠隔:8.5%

□ 学士力 : GPA高い

■ GPA低い

- **全面对面希望者** : 双方向性の学びを含め真面目に学業に取り組みたい人。学内交流を含む「学生生活」を求める人。授業のみ熱心で、従順・受動的な優等生タイプの人もいそう
- **対面中心希望者** : 上記に加え、学業や自分がしたいことに熱心・活発で、必要に応じて合理的に時間を使いたい人
- **遠隔中心希望者** : 対面中心と同傾向、学内交流避けたい人もいる
- **全面遠隔希望者** : 3派に分かれそう
 - a) 学内交流のストレスなく学業に取り組みたい人。メンタルに課題のある人含め通学や学内交流が負担だった人
 - b) 学業よりも資格試験、就活などに熱心な人
 - c) 大学という「場」に期待していない人

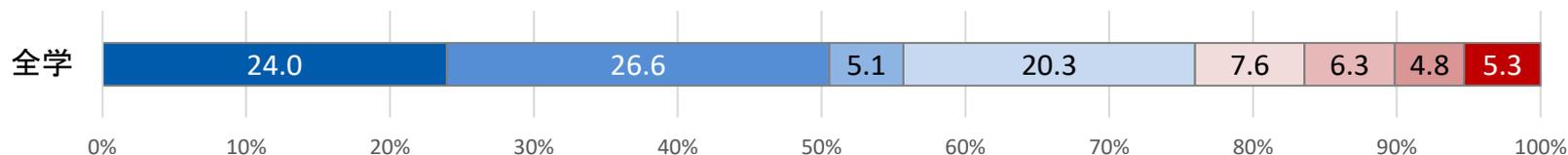
■ 遠隔に利点なし

 ■ 利点なし
 □ 不便なし
 ↑↓

ブレンド型授業の履修意向

- 反転授業：学修効果が期待でき、事前授業負担が**過度の負担にならないなら**受け入れられそう
- 履修科目数とのバランスが課題

反転授業の導入の賛否は？ (2021年10月)



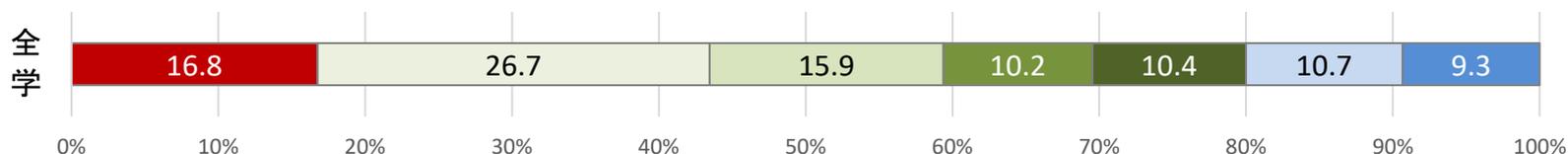
- ①学修効果があがるなら賛成
- ②トータル授業負担が過度に増えないなら賛成
- ③予習時間が1時間程度なら賛成
- ④予習時間が30分程度なら賛成
- ⑤予習はできないこともあるので反対
- ⑥時間割時間以外は増やしたくないので反対
- ⑦講義中心の授業のほうがよいので反対
- ⑧なるべく負担少ないほうがよいので反対

ハイフレックス型授業の履修意向

- ハイフレックス：双方向かどうかや授業の難易度など、**授業の質により使い分けたい人が2/3**
- 対面の価値を提供できない授業は、履修生が遠隔に流れる？

ハイフレックス型授業を履修するとしたら？ (2021年10月)

(注：同一の授業を対面と遠隔で提供し、学生が選べる方式)



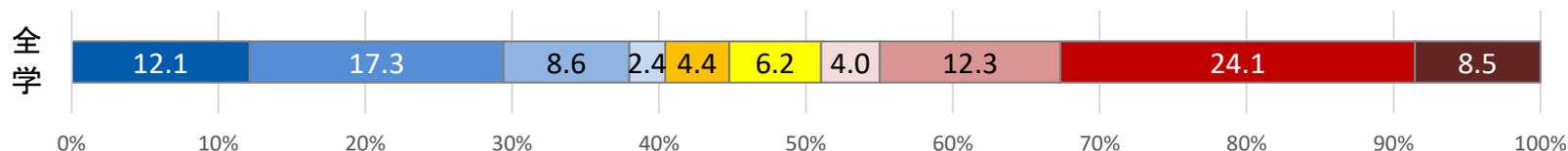
- ①対面が自分に合ってるので、基本的には対面授業を受ける
- ②双方向授業は対面、講義は遠隔など内容で使い分ける
- ③遠隔でもわかりやすい授業は遠隔、他は対面など難易度で使い分ける
- ④興味のある授業は対面、他は遠隔など自分のモチベーションで使い分ける
- ⑤該当授業前後の予定との兼ね合いで使い分ける
- ⑥通学しなくて済むので、基本的には遠隔授業を受ける
- ⑦遠隔が自分に合ってるので、基本的には遠隔授業を受ける

講義中心の教養科目の授業方法

- 対面/遠隔は拮抗
- 対面派：①わかりやすいより、②友人と会えるが多い
- 遠隔派：利便性（都合のよい時間に学べる）が中心

講義中心の教養科目の授業方法は？（2021年10月）

（注：教養科目は大教室、講義中心の知識付与型科目が多く、感染リスクを避けるため遠隔方式が多い）



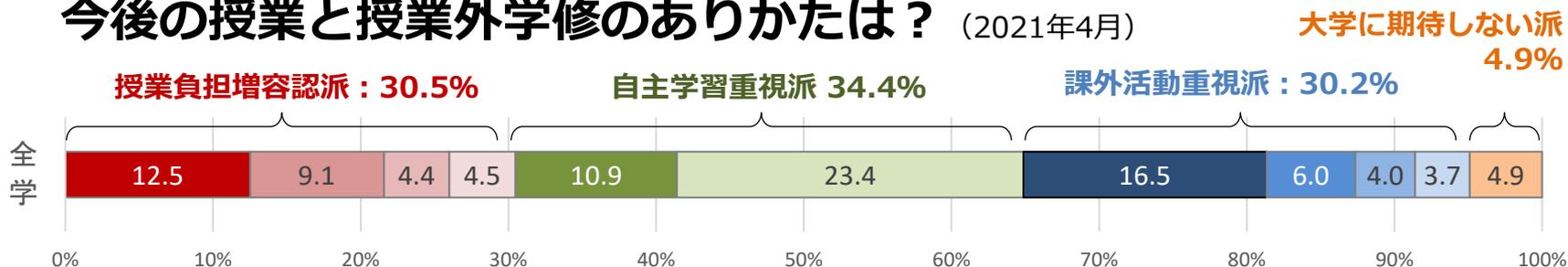
- ①対面のほうがわかりやすいので、対面授業のほうがよい
- ②友人等に会えるので、対面授業のほうがよい
- ③ディスカッションなど双方向の手法を取り入れ、対面でするほうがよい
- ④ビデオや資料配布では大学の価値がないので、対面のほうがよい
- ⑤わかりやすさに変わりはないのでどちらでもよい
- ⑥できるだけ負担が少なく単位が取得できるならどちらでもよい
- ⑦質疑応答の機会が確保できるなら、遠隔授業のほうがよい
- ⑧わかりにくいところを繰り返し学べるので、遠隔授業のほうがよい
- ⑨都合のよい時間に学べるので、遠隔授業のほうがよい
- ⑩通学や身支度の手間をはぶけるので、遠隔授業のほうがよい

授業と授業外学修

- 授業負担増容認派、自主学習重視派、課外活動重視派が三つ巴
- 単位の実質化含め、New normal時代の大学教育はどうあるべきか？

Q：日本に比べ、海外の大学は勉強が大変と一般に言われています。その要因の1つは、前問の単位の考え方に則り、授業外学修として事前の読書課題や授業後のレポート課題などを課しているからです。こうした海外と日本の大学の違いを踏まえ、日本の大学教育はどうあるべきと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

今後の授業と授業外学修のありかたは？ (2021年4月)



- ① 日本の大学教育の質を保证するため、海外の大学のように授業外学修を増やすほうがよい
- ② グローバル化の中で海外の人材に伍する知見を身につけるため、授業外学修を増やすほうがよい
- ③ 学費に見合う学修成果を得たいので、授業外学修を増やすほうがよい
- ④ 課題を課されるほうが勉強するので、授業外学修を増やすほうがよい
- ⑤ 現状でも「単位」の考え方に見合う授業外学修時間を費やしているので、これまで通りでよい
- ⑥ 自由な時間があるほうが主体的に学べるので、これまで通りでよい
- ⑦ 部活・サークル活動や交友など、学業以外の機会も大切にしたいので、これまで通りでよい
- ⑧ 資格取得など学業以外の勉強にも時間を使いたいので、これまで通りでよい
- ⑨ インターンシップや就職活動の時間を確保したいので、これまで通りでよい
- ⑩ アルバイトで学費や生活費を稼ぐ必要があるので、これまで通りでよい
- ⑪ できるだけ学業の負担を少なく卒業資格を得たいので、これまで通りでよい